



茂建第119号

平成20年10月16日

国土交通省
道路局長 様

茂木町長 古口 達也



今後の道路行政についての意見・提案について

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました件について、別紙のとおり提出致します。

記

提出書類

1 様式1～4 各1

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

様式①

栃木県 茂木町

地方において道路は生活上最も基本となる社会資本です。しかしながら、県管理の国道、県道さらに町道において、急カーブや狭隘な道路がまだまだ多く、通勤や通学、緊急車両の通行のため安全安心な道路整備が強く求められています。しかし、過疎化が進む中山間地の自治体においては歳入の多くを地方交付税に頼る状況にあり、道路整備が進まないのが現状であります。また、中山間地や過疎地では道路管理にも多くの財源が必要です。面積や道路延長に比べて手厚い道路財源の譲与が求められます。さらに、地方の生活関連道路整備補助事業枠の拡大や突角除去的な小規模改良補助事業を創設する等、地方の生活を守るための道路行政推進を望みます。

地方の道路は疲弊しています。今こそ地方に目を向けた道路行政が必要です。

今後の道路行政についての意見・提案
②ー1 地域の現状と抱える課題

様式②
栃木県 茂木町

○現状	○課題
① 平成14年10月から地域座談会を開き、地域の様々な問題を聞いている。現在までに延べ79回を数え、道路問題については毎回必ず出てくる。道路問題だけで座談会のほとんどの時間を費やす場合もある。 ② 通学路については、特に歩道の整備が遅れている所が多く、大型車等の風圧にさらされながら、狭い車道を子供たちが必死に通学している。高齢者にとっても事情は同様である。 ③ 中山間地である当町では、狭い道路が多く、緊急車両(救急車、消防車)の通行にも支障をきたしている。特に火災時に消火作業等で道路を塞ぐと、う回路もなく、全面的に交通が遮断してしまい、地域生活に支障をきたしている。 ④ 舗装道路や橋の老朽化が進んでおり、アスファルト舗装の凸凹等の補修要望が多い。	① 本町の様に道路の「量」的整備もまだまだな地域において、地域住民の道路に対する要望を叶える為の財源をいかに確保するか。道路財源が減額され、補助事業等が減れば、それは即、道路整備の遅れにつながる。 ② 新規道路事業に対する補助事業はあるが、道路維持修繕に対する補助事業は無い。財政規模の小さい町にとって、新規事業もままならない現状なのに、道路修繕まで手が回らない。今後安全で安心して通れる道をどのようにに維持していくか。

今後の道路行政についての意見・提案

②—2地域の目指すべき将来像

様式③

栃木県 茂木町

通勤、通学、買い物などの日常生活は、車を抜きにしては成り立ちません。道路網の整備は町民の暮らしを支える生命線といえます。

近隣市町村を結ぶ主要幹線道路整備と集落をつなぐ生活道路整備とに区分し優先順位を明確にした道路網の整備を積極的に推進する。

加えて高齢化社会に対応するために、緊急車両の通行や安全性の確保に配慮した道路の整備を図り快適で安全な生活空間づくりをめざす。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項 地域活力の向上 危機管理の強化	○代表事例 123号線バイパスと道の駅	○期待する効果や評価等 道の駅建設当初はバイパスも開通せず、「道の無い道の駅」と揶揄されていたが、一部開通後は県都宇都宮と水戸市の中間地点であることから大型バスも止まるなど、重要な車の休憩地点となっている。また、道の駅では地元の野菜等を朝市として販売しており、非常に好評を博している。野菜等の販売が好調であることから遊休農地の活用、高齢者の生きがいづくり等地域の活力を高めるのにも役立っている。また、防災拠点にもなっており、本町の危機管理の拠点の一つとして重要な位置を占めている。
良好な景観の形成	棚田へ通じる道路の整備	棚田の管理は、地域の環境、水の保全に非常に重要である。しかしながら、棚田があるようところは道路も狭く、維持管理に大変な労力を必要とする。周辺道路が整備されたことから、管理も容易になり、訪問者も増え良好な環境は観光にも良い結果をもたらしている。平成19年度には「棚田サミット」も開催された。

様式④

栃木県 茂木町

○その他